

深海魚いろいろ

南部 久 男

暗黒、高圧、低温とわたしたちの想像もつかない深海には、いったいどんな魚たちが生活しているのでしょうか。さぐってみることにしましょう。

深海魚の種類と生活場所

現在地球上に知られている約20,000種の魚類のうち約2000種が深海魚と言われています。最も多いのは、サケ、ハダカイワシ、タラのグループで、これらで深海魚の半数以上を占めます。

深海魚の生活場所は、深さ 200m から6000m を越します(図1)。深海魚には、海中を漂って生活するものと海底で生活するものが知られています。また、垂直移動するものもあります。

深海魚といえばフクロウナギ(図2)のように、大きな口をしていたり、チョウチンアンコウのように発光器を持つなど変わった姿をしたものがある。水深1000m前後の海中に漂って生活する、このような変わった姿をした深海魚たちは、「一次性深海魚」とよばれ、古くから深海に進出し、深海の生活に適した姿になった深海魚と考えられ

ています。また、ハダカイワシの仲間などは、夜は餌のプランクトンを食べに水面近くまであがって来て、逆に、昼は 500~1000m に潜って生活します。水深 200~1000m の海中には約1000種類の深海魚がすんでいます。

もともと大陸棚にすんでいて深海の海底に進出し、姿もあまり変化していない深海魚は、「二次性深海魚」と呼ばれています。深海の海底には、二次性深海魚が約800種類みられます。水深200~1000m ではニギスやタラ、カレイの仲間など食卓でなじみのある魚がすんでいます。1000~3000m では種類は少なくなり、熱帯の海ではイタチウオ科、ソコダ科などが、寒い地方の海では、クサウオ科とゲンゲ科がこの深さの代表的な深海魚です。地球の表面の半分以上を占める3000~6000m の深海底では、魚の種類は非常に少なくなり、70種類前後に過ぎません。

世界で最も深い海は約 11000m にもなります。6000m より深いところ(超深海)にすむ魚はアシロ科とクサウオ科などにわずかな種類しか知られていません。超深海では古いタイプの一次性深海魚は減び、寒さに強い二次性深海魚が進出してきたと考える説もあります。

太平洋の深海魚

太平洋には変わった姿をしていたり、発光器を持つ深海魚や生きた化石とよばれるサメなどがすんでいます。

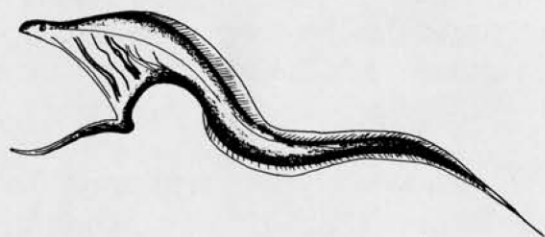


図2 フクロウナギ

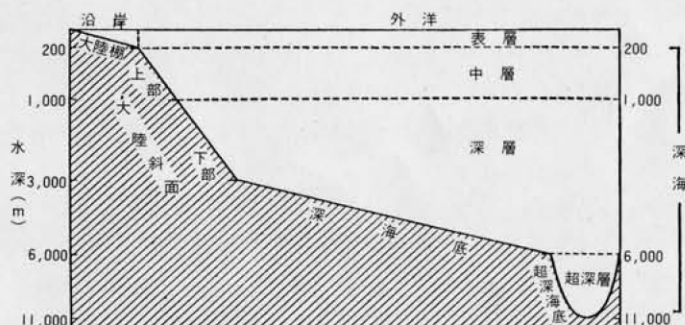


図1 海洋区分(ブリッグス, 1974)

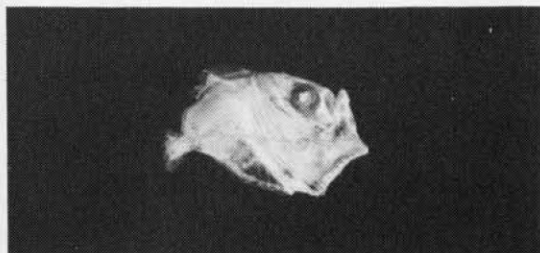


図3 ムネエソ
(横須賀市自然博物館所蔵標本)

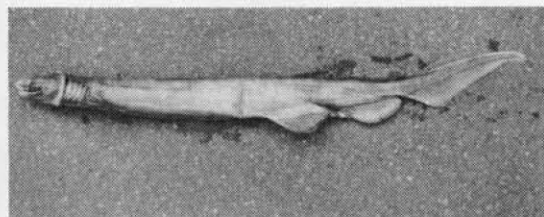


図4 ラブカ
(東海大学海洋科学博物館所蔵標本)

暗く、広い深海ではえさをとるのが大変です。そのため、いくつかの工夫がみられます。フクロウナギは大きな口で確実にえさを捕えます。背びれが変化した釣りざおのような突起物で他の魚をおびきよせるのはチョウチンアンコウの仲間です。これらの魚は、えさの少ない深海で、むだなエネルギーを使わず確実にえさを捕まえる方法をみにつけていると考えられます。

暗黒の深海には発光器を持つ魚が多く知られています。身を守るため敵の目をごまかしたり、えさをおびきよせたり、オスとメスが出会うための連絡に使ったり、その役割はいろいろです。ハダカイワシやムネエソ(図3)は自力で光る発光器を持ち、肉眼でもよくみえます。ツラナガコビトザメやフジクジラは全身に小さな発光器を持つ深海の小型発光ザメです。ホタルジャコは自力で光らず共生している発光細菌が光ります。光る方法もさまざまです。

深海は、浅いところに比べ水温などの環境の変化がたいへん少ないところで、生きた化石とよばれる魚もすんでいます。太平洋側の相模湾や駿河湾は、昔から生きた化石とよばれるラブカ(図4)やミツクリザメ(図5)のいる湾として有名です。

日本海の深海魚

富山湾や日本海の深海には、フクロウナギやチ

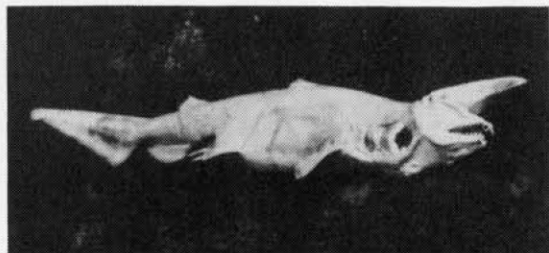


図5 ミツクリザメ
(横須賀市自然博物館所蔵標本、林公義氏撮影)

ョウチンアンコウなど変わった姿をした一次性深海魚はほとんど見つかっていません。これは、日本海が成立した歴史が新しいことや、日本海の最深部が3500mもあるのに太平洋側と連絡する津軽海峡や朝鮮海峡がせいぜい140mと浅く、太平洋側の深海魚が入りこめないことなどがその理由だと考えられています。そのかわり、ゲンゲ科、クサウオ科、カジカ科など、冷たい海にすむ二次性深海魚が多くすんでいます。

太平洋側には、餌を求めて垂直移動するハダカイワシ類やヨコエソ類などの深海魚が非常にたくさんすんでいます。これらの稚魚は、時々対馬暖流に乗り日本海へ入って来ますが、対馬海峡の周辺ですべて死んでしまいます。対馬海峡が浅く入り込めないことや、また、日本海の深いところにある冷たい海水のため、垂直移動するこれらの魚が生きていけないためと考えられています。しかし、ただ1種類、キュウリエソだけが日本海に進出し、繁栄をとげています。

日本海の海底には、シャチホコのモデルであるという説もあるトクビレの仲間や、細長い体のタウエガジの仲間が繁栄しています。これらは、日本海で色々な種類に分かれた、いわば日本海で進化したと考えられている魚たちです。他には、アゴゲンゲ、タナカゲンゲなどのゲンゲの仲間やアカガレイ、セッパリカジカ、ザラビクニン、水深200m付近でとれる日本海の味覚ハツメなども日本海で進化したと考えられている魚たちです。

太平洋と日本海、同じ海でもすんでいる深海魚の顔ぶれは非常に違います。深海展でいろいろな深海魚をじっくり観察してみてください。

(なんぶ ひさお 脊椎動物担当)